

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームぐれない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしており、家具や調度品にも温かみや懐かしさを感じられるようなものを選んでる。
職員も利用者の感情に寄り添い、一緒になって泣いたり笑ったり、家族のような安心できる関係を築けるよう心がけている。基本理念にあるように、笑顔の絶えない生活が送れるよう支援していきたいと、全職員がやりがいを持ってケアに取り組んでいる。
ホーム長・職員共に利用者と家族に満足していただけるサービスが提供できるよう日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅街の中に位置する事業所から、石鎚山や東予港、加茂川など自然豊かな景色を眺めることができる。玄関や共有空間には各所に雛飾りや生花が飾られ、利用者は季節感を感じることができる。また、昔懐かしい家具やマシンが置かれ、利用者は落ち着いた環境の中で思い思いの場所で過ごすことができている。職員は利用者一人ひとりの歩んできた人生を大切に考えながら、個別ケアに取り組んでいる。利用者の重度化が進む中、看護経験の豊かな管理者の指導のもと看取りにも積極的に取り組んでいる。また、地域の若い世代の人たちにも認知症の理解を深めてもらうため、分かりやすく手作りした紙芝居を使用した出前講座を行い、啓発に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ぐれない
(ユニット名)	お福
記入者(管理者)	
氏名	井上 静
評価完了日	平成 26 年 2 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「利用者さん第一」であることを経営理念に掲げ、職員全員がそれを理解し日々のケアに実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した運営理念に沿って、笑顔の絶えない楽しい日々を限りなく自宅に近い普通の家で、無事故や健康、長寿を願い、利用者や家族を支援している。また、「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーとして、理念を事業所内に掲示し職員間で共有して支援している。管理者は職員が利用者の支援に気になることがある場合は、その都度原点に立ち返るよう伝えており、職員はしっかりとその思いを受け止めて支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りの時には自治会の皆さんがだんじりを見せに立ち寄ってくれたり、近所の保育所が慰問に訪れてくれたりと、交流の機会が多くある。</p> <p>(外部評価) 開設当初は事業所や認知症のことを地域住民に理解してもらいづらかったが、代表者は分かりやすく手作りした紙芝居を使用した出前講座を行い、地域住民に理解を得ている。自治会や民生委員の協力を得ながら、日々の挨拶や地元商店街で買い物をするなど、地域住民との交流が広がっている。保育園児の訪問や中学生の職場体験の受け入れなど、地域の一員として事業所ができることを積み重ねながら交流を深めている。秋祭りにはだんじりが立ち寄り、利用者は楽しみにしている。また、地域住民から介護の困りごとの相談があるなど、地域との相互の交流が自然に行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の方が介護に関する相談に来られるなど、経験を活かした協力をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回の会議では利用者や家族、地域の方にも参加していただき、事業所の取り組みや近況を報告している。利用者や外部の方から意見を頂ける貴重な機会でもあり、サービス向上に役立っている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員等の協力を得て、2か月に1回開催している。代表者は参加者の印象に残る会議の開催を目指しており、事業所の運動会や防災訓練を合わせて開催するよう工夫している。会議では事業所の取り組みを報告するほか、参加者から地域の情報や多角的な意見をもらい、地域住民から事業所の理解と支援を得るための貴重な機会として役立っている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 市町村担当者とは協力関係が出来ている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。代表者と管理者にとって市担当者は身近な存在で、市の担当窓口で介護保険の更新手続きや運営上の相談を行うなど、密接な協力関係を築いている。また、気になることはすぐに市担当者に相談する姿勢で、実情を確実に伝えアドバイスを得ている。毎月、介護相談員の訪問があり、利用者の相談相手となっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 玄関にセンサーや共同空間の出入り口にベルを取り付けるなど設備を工夫したり、職員の配慮によって施錠や拘束の必要が無いケアを実践している。</p> <p>(外部評価) 代表者は職員に勉強会や話し合いをして身体拘束にあたる行為を知ってもらい、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアを実践しており、職員間に根付いている。代表者と管理者は職員の気になる行為があった場合にはその都度話し合いを行い、職員全員に報告し注意喚起をしている。玄関にはセンサーが取り付けられ、日中は開放し利用者は自由に出入りすることができ、夜間のみ施錠している。外出しようとする利用者には、職員間での見守りを徹底し、安心して生活できるよう取り組んでいる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者も含めた日々のミーティングにより虐待防止の必然性を全職員が理解している。職員同士の気づきによって小さな言葉の暴力でも絶対に見過ごすことの無い体制が出来ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について講習等で学ぶ機会を持つ職員もおり、活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、利用者や家族が納得が行くまで話し合い、契約を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 一ヶ月に一度は管理者が家族と面談する機会を設け、利用者の近況や身体状況を報告するとともに、家族からの要望や意見を頂戴し、運営やケアプランに取り入れている。運営推進会議やミーティングの場で外部の方や職員にも伝えている。 (外部評価) 日常生活の中で利用者から意見や要望を聞いている。面会時や運営推進会議の開催時に、家族に利用者の様子などを報告し、意見や要望を聞くように努めている。また、利用料は事業所の窓口で直接支払ってもらう方法で、家族等が毎月事業所に訪問があり話し合いをしており意見を聞きやすい環境づくりをしている。年4回「くれないだより」を発行し、定期的に事業所での様子を伝えるようにしている。出された意見や要望は早期対応を心がけており、職員間で検討し介護計画に反映している。代表者と管理者は利用者や家族が気軽に意見を伝えることができるよう、良好な関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 申し送りや毎月のミーティングの際に出される職員の意見を積極的に取り入れている。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティングや日々の申し送り時等に、管理者と職員は気軽に意見交換をしている。日頃から職員は代表者や管理者に意見や提案を伝えることができる。また、管理者は悩み等を相談にも応じており、職員との信頼関係を築いている。開設当初から勤務している職員も多く、お互い温かい気持ちで働きやすい環境づくりができています。出された意見や話し合った内容等は職員が必ず立ち寄るキッチンに掲示し、運営に反映されるような仕組みづくりができています。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各職員の能力や実績に応じた賞与支給、希望を取り入れたゆとりのある勤務体制によって各職員がやりがいを感じつつ無理なく働くことの出来る就業環境が整っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各職員の希望に応じて、研修への参加や資格取得を推奨・援助している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者の知人のケアマネージャーの勧めでショートステイや入所を希望する利用者もおられ、良好なネットワークづくりが出来ている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所を決める前に「おためし」でサービスを体験してもらったり、入所後も数日に一度帰宅して少しずつホームにも慣れてもらったりと、安心してホームでの生活ができるよう工夫をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してサービスが受けられるよう十分な話し合いを重ね、信頼関係を築いたうえでサービスが開始できるよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談やアセスメントを重ね、利用者の現状における最適なサービスを受けられるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「家族のような関係」であり続けることを目指し、対等かつ敬意を持って利用者に接するよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所後も家族の協力が不可欠だということを理解していただき、協同してケアに取り組める関係が出来ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の友人知人が気軽にホームに訪ねてこられている。また、利用者が家族や友人に季節の便りや手紙を書く支援をしている。 (外部評価) 利用者が今までに培ってきた人間関係や社会、習慣等の関係を利用開始時に利用者や家族から聞いて把握し、事業所を利用しても関係の継続ができるよう支援している。家族の協力を得て、利用者が馴染みの場所に出かけられるよう支援している。押し花や手芸、マジックなど地域のボランティアの訪問があり、新たな馴染みの関係を築きながら楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの性格や利用者同士の相性などを把握し、職員が必要に応じてさりげなく利用者同士の間に入ることで孤立する利用者がいたり対立が起きたりしないよう、努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も家族が訪れて近況を知らせてくださるなど、交流がある。その際、家族からの相談に助言することもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の意思を表現するのが難しい利用者が多いため、一人ひとりとの普段の会話を大切にし、そこからそれぞれの希望や意思を汲み取り、それを実現できるケアプランを実施している。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いや要望を聞き把握するよう努めている。思いを伝えることが困難な利用者には、家族等から情報を得て利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。新たに得られた情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族との面談、また以前利用していたサービス担当者、かかりつけの医療機関との連携により、把握できている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各職員が家族のように共に生活する中で、利用者一人ひとりの心身や気持ちの変化を機敏に察知し、把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人の現状と希望を把握し、家族や関係者の意見を取り入れ、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにプランの見直しを行い現状で最適なケアが実施されるよう心がけている。 (外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。現在は利用者毎の担当制を設けておらず、介護記録等を確認しながら職員間で話し合いモニタリングをしている。3か月に1回見直しを行い、現状に即した介護計画になっている。職員は看護経験豊富な管理者から指導を受け、医学的な視点や判断能力を養いながらケアを実践している。また、現在職員間で話し合い介護記録の様式の改善を行っている。	今後も分かりやすい介護記録や介護計画の作成となるよう検討を継続させ、介護計画の内容を職員全員が理解して支援できることを期待したい。また、介護計画の内容に沿った介護記録を作成し、根拠あるモニタリングが行えるような取組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者それぞれに毎日の介護記録を作成し、小さな変化も見逃さないようにしている。また職員間での申し送りや意見交換にて現状を把握し、プランに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 家族が高齢で面会に来れない場合に本人を自宅まで連れて面会できるようなサービスを行ったり、動物好きな利用者のために職員が飼っている犬を連れてきてふれあってもらったりと、希望に応じた試みを行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近所の方が手芸を教えに来てくださったり、中学生の職場体験を受け入れたり、地域の力を通じて利用者が楽しくいきいきと暮らせるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人を長年担当しているかかりつけ医と連携し、安心して 医療を受けられるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て 受診することができる。家族が同行できない場合は職員が 同行して適切な医療を受けられるように支援している。ま た、協力医との連携が密に取れており、往診や緊急時にも 迅速に対応することができ、利用者が安心して生活が送れ るよう支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 体調不良の場合にはまず看護資格をもった職員に報告・相 談し、適切な対応ができるよう全職員に徹底している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 病院側との情報の共有に努め、早期退院に尽力してもらえ るよう、信頼関係が出来ている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者 と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族からの希望があれば、ホームでのターミナルケ アも受け入れており、利用者が望む形での終末期を迎えら れるよう、医療機関の協力も得て体制を整えている。職員 も理解・協力して支援している。</p> <p>(外部評価) 事業所では看取り支援を経験している。利用開始時に事業 所としてできる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認 している。利用者の状態に応じて、家族等と話し合いを重 ねながら適切な支援ができるよう努めている。ターミナル ケアは看護師資格を有する管理者が職員に詳細に指導を行 い、職員も状況に応じた具体的な対処や介護職としてでき る支援をしている。また、協力医と連携し、利用者や家族 を真心から支えるケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の講習会やホームでの定期的な訓練によって、緊急時に適切な対応が可能である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全職員が参加する年に2回の避難訓練で、対応力を身につけている。	
			(外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は防火管理会社の協力を得て専門的なアドバイスを受けている。非常緊急通報システムなどを定期的に点検している。代表者は防災士の資格を持っており、事業所には防災頭巾を備えるなど、自主的に安全に対する備えを行い、危機感を持って地域に発信できるように意識して取り組んでいる。地域に自主防災組織はないが、運営推進会議を利用して参加者と災害対策などの意見交換をしている。	事業所は河川や海に近いので、様々な災害を想定した訓練を行い、利用者が安全に避難できるよう取組を望みたい。また、災害時の地域の協力者を増やし、一緒に継続した訓練が実施できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 家族のような馴染んだ関係の中にも、敬意を持った言葉をつかい、必要以上の干渉はしないなど、プライバシー尊重も心がけている。	
			(外部評価) 職員は何よりも利用者本人の気持ちを最優先に考えて支援している。利用開始時に利用者がどう呼ばれたいかを確認し、家族等に若い頃の呼び名を尋ねたり、話すことが困難な利用者にも本人が一番落ち着く名前と呼んであげたいと尊敬の念を持って接している。また職員は慣れからくる口調に気をつけ、声かけや接遇面にも注意しながら、気になることは職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は日常の何気ない会話から本人の意思を読み取れるよう心がけている。また自己表現が困難な方には職員が分かりやすい選択肢を示し答えやすい形にするなど、利用者の思いをくみ取り実現できる働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れはあるものの、それぞれの利用者が自分のペースで生活できるよう職員がそれぞれに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装や髪形は、本人や家族の希望通りにしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望を取り入れた献立作りから始まり、買い物や調理、片付けも出来る方には手伝っていただいている。時には外食したり、テイクアウトのハンバーガーを食べていただくなど、変化に富んだ食事を楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 家庭的な温かさや利用者の希望を取り入れて献立を立て、地域の商店から旬の食材や地域で取れた食材が届けられ、職員が利用者にごしらせや食事の準備などを手伝ってもらいながら料理をしている。食事には冷凍の食材は使用せず、衛生面を考え作り置きもしていない。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じ食事を食べている。毎月1日は赤飯を作り時期が分かる工夫をしたり、毎月行事食を利用者と一緒に料理したりしており、利用者の食事を楽しむ様子をアルバム「ぐれないレストランメニュー」にまとめている。外食も取り入れ、利用者の楽しみにつながる工夫をしている。また、利用者においしい食事が提供できるよう、入職後に調理師資格を取得した職員もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体格や持病に合わせ、バランスの取れた食事を提供している。お茶を飲みたがらない方には少量ずつこまめに摂取できるよう声掛けを工夫するなど水分補給にも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員も一緒に歯磨きをするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) それぞれの排泄パターンを把握し、さりげなく声を掛けたりトイレ誘導することで排泄の自立を目指している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴えや表情、様子を見て、さりげなく声かけをしてトイレ誘導を行っている。現在、オムツを使用している利用者はいない。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が1名いるが、現状を維持できるようにできる限りトイレでの自然な排泄ができるよう継続支援している。利用者の状態に応じて、パッドやリハビリパンツ等の用品を選択して使い分け、利用者本位のケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 十分な水分補給、根菜・豆類を多用した献立、また体操やホーム内を歩くなど軽い運動で便秘予防に心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間は午後からと決まっているものの、利用者全員が楽しく気持ちよく入浴できている。	
			(外部評価) ユニット毎にゆったりとした個別浴槽があり、週3回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて毎日入浴することができるほか、夜間20時まで入浴ができるよう支援している。1階には車いすの利用者にも座ったまま安楽に入浴なみの温熱効果が得られる福祉用具を設置し、利用者の状態に合わせて使用している。入浴が苦手な利用者には、無理強いせず声かけや部屋の温度などの環境を工夫しながら、気持ち良い入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の明るさや就寝時の服装は本人の好みに合わせ、使い慣れた寝具を使ってもらい安心して眠ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員は処方箋の注意書きをよく読み、熟知している。薬の種類や量の処方に変化があれば各職員に文書を掲示し、注意を促すようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホームでカラオケを楽しんでもらったり、趣味の手芸や読書に興じる方もいる。ビールを飲む習慣のある方には家族や主治医の判断も仰ぎホームでも飲めるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物、スーパーのフードコートでおやつを楽しむなど、日常的に外出する機会を持っている。家族と定期的に外食の機会を持つ利用者もおられる。	
			(外部評価) 日頃から利用者の希望に沿って散歩や買い物に出かけており、気分転換や地域住民との交流を楽しむことができている。地域住民の好意で、畑で野菜の収穫を体験できるよう支援している。季節に応じて、花見等に外出が楽しめるよう支援しており、利用者の生き生きとした生活につながっている。また、家族の協力を得て外出をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は本人や家族と相談し、本人の状態に合わせた対応をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿えるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 室内の明るさ、温度、テレビの音量などは職員が常に気を配り適切な状態に保たれている。ホームの様々な場所に季節の花や小物を飾り、家庭的でぬくもりのある心地良い空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 開設10年を迎えたが、事業所内は非常に清潔で丁寧に管理されている。特に外部からの感染等に配慮し、利用者気持ち良く生活してもらえよう、1日3回清掃を行い清潔が保たれている。共用空間は目が行き届きやすく開放的で広々とした造りで、窓からは四季折々の美しい石鎚山脈などを眺めることができる。広い畳スペースや廊下には利用者家族から譲られた昔懐かしいミシンや家具などが置かれ、ゆっくりとした時間の流れを感じることができる。置かれている一つ一つのものに思いや温かみを感じられ、利用者の立場を考えた空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間では、椅子の他ソファや畳の間もあり、利用者が気の向いた場所で過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や身の回り品は使い慣れたものを持ってきてもらい、使いやすい配置にしている。テレビ鑑賞が好きな方はテレビを持ち込み、自室でも楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられており、利用者の思い入れのあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけをしている。家族に協力してもらい、衣替えや季節の飾りをするなど、利用者に合わせて空間づくりをしている。利用者の希望により畳を敷いている部屋もあり、夕食後には利用者同士が畳の居室に集まり、近所の仲間としての交流もしている。利用者の習慣に合わせた暮らしを実現してもらうことが、居心地の良い生活につながっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや手洗い場を分かりやすく表示したり、夜間の転倒予防のためセンサー式の足元灯を設置したり、安全に配慮し自立に向けた環境づくりに努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600479
法人名	有限会社みらい館
事業所名	グループホームぐれない
所在地	愛媛県西条市樋之口380-1
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切にしており、家具や調度品にも温かみや懐かしさを感じられるようなものを選んでいく。
職員も利用者の感情に寄り添い、一緒になって泣いたり笑ったり、家族のような安心できる関係を築けるよう心がけている。基本理念にあるように、笑顔の絶えない生活が送れるよう支援していきたいと、全職員がやりがいを持ってケアに取り組んでいる。
ホーム長・職員共に利用者や家族に満足していただけるサービスが提供できるよう日々、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅街の中に位置する事業所から、石鎚山や東予港、加茂川など自然豊かな景色を眺めることができる。玄関や共有空間には各所に雛飾りや生花が飾られ、利用者は季節感を感じることができる。また、昔懐かしい家具やマシンが置かれ、利用者は落ち着いた環境の中で思い思いの場所で過ごすことができている。職員は利用者一人ひとりの歩んできた人生を大切に考えながら、個別ケアに取り組んでいる。利用者の重度化が進む中、看護経験の豊かな管理者の指導のもと看取りにも積極的に取り組んでいる。また、地域の若い世代の人たちにも認知症の理解を深めてもらうため、分かりやすく手作りした紙芝居を使用した出前講座を行い、啓発に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ぐれない

(ユニット名) お幸

記入者(管理者)
氏名 信宮 綾

評価完了日 平成 26 年 2 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「利用者さん第一」であることを経営理念に掲げ、職員全員がそれを理解し日々のケアに実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した運営理念に沿って、笑顔の絶えない楽しい日々を限りなく自宅に近い普通の家で、無事故や健康、長寿を願い、利用者や家族を支援している。また、「心こそ大切」「一人の人を大切に」をモットーとして、理念を事業所内に掲示し職員間で共有して支援している。管理者は職員が利用者の支援に気になることがある場合は、その都度原点に立ち返るよう伝えており、職員はしっかりとその思いを受け止めて支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りの時には自治会の皆さんがだんじりを見せに立ち寄ってくれたり、近所の保育所が慰問に訪れてくれたりと、交流の機会が多くある。</p> <p>(外部評価) 開設当初は事業所や認知症のことを地域住民に理解してもらいづらかったが、代表者は分かりやすく手作りした紙芝居を使用した出前講座を行い、地域住民に理解を得ている。自治会や民生委員の協力を得ながら、日々の挨拶や地元商店街で買い物をするなど、地域住民との交流が広がっている。保育園児の訪問や中学生の職場体験の受け入れなど、地域の一員として事業所ができることを積み重ねながら交流を深めている。秋祭りにはだんじりが立ち寄り、利用者は楽しみにしている。また、地域住民から介護の困りごとの相談があるなど、地域との相互の交流が自然に行われている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 近所の方が介護に関する相談に来られるなど、経験を活かした協力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回の会議では利用者や家族、地域の方にも参加していただき、事業所の取り組みや近況を報告している。利用者や外部の方から意見を頂ける貴重な機会でもあり、サービス向上に役立っている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、自治会長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員等の協力を得て、2か月に1回開催している。代表者は参加者の印象に残る会議の開催を目指しており、事業所の運動会や防災訓練を合わせて開催するよう工夫している。会議では事業所の取り組みを報告するほか、参加者から地域の情報や多角的な意見をもらい、地域住民から事業所の理解と支援を得るための貴重な機会として役立っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは協力関係が出来ている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。代表者と管理者にとって市担当者は身近な存在で、市の担当窓口で介護保険の更新手続きや運営上の相談を行うなど、密接な協力関係を築いている。また、気になることはすぐに市担当者に相談する姿勢で、実情を確実に伝えアドバイスを得ている。毎月、介護相談員の訪問があり、利用者の相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にセンサーや共同空間の出入り口にベルを取り付けるなど設備を工夫したり、職員の配慮によって施錠や拘束の必要が無いケアを実践している。	
			(外部評価) 代表者は職員に勉強会や話し合いをして身体拘束にあたる行為を知ってもらい、職員は正しく理解して身体拘束をしないケアを実践しており、職員間に根付いている。代表者と管理者は職員の気になる行為があった場合にはその都度話し合いを行い、職員全員に報告し注意喚起をしている。玄関にはセンサーが取り付けられ、日中は開放し利用者は自由に出入りすることができ、夜間のみ施錠している。外出しようとする利用者には、職員間での見守りを徹底し、安心して生活できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者も含めた日々のミーティングにより虐待防止の必然性を全職員が理解している。職員同士の気づきによって小さな言葉の暴力でも絶対に見過ごすことの無い体制が出来ている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護について講習等で学ぶ機会を持つ職員もおり、活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、利用者や家族が納得が行くまで話し合い、契約を交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 一ヶ月に一度は管理者が家族と面談する機会を設け、利用者の近況や身体状況を報告するとともに、家族からの要望や意見を頂戴し、運営やケアプランに取り入れている。運営推進会議やミーティングの場で外部の方や職員にも伝えている。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から意見や要望を聞いている。面会時や運営推進会議の開催時に、家族に利用者の様子などを報告し、意見や要望を聞くように努めている。また、利用料は事業所の窓口で直接支払ってもらう方法で、家族等が毎月事業所に訪問があり話し合いをしており意見を聞きやすい環境づくりをしている。年4回「くれないだより」を発行し、定期的に事業所での様子を伝えるようにしている。出された意見や要望は早期対応を心がけており、職員間で検討し介護計画に反映している。代表者と管理者は利用者や家族が気軽に意見を伝えることができるよう、良好な関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 申し送りや毎月のミーティングの際に出される職員の意見を積極的に取り入れている。</p> <p>(外部評価) 毎月のミーティングや日々の申し送り時等に、管理者と職員は気軽に意見交換をしている。日頃から職員は代表者や管理者に意見や提案を伝えることができる。また、管理者は悩み等を相談にも応じており、職員との信頼関係を築いている。開設当初から勤務している職員も多く、お互い温かい気持ちで働きやすい環境づくりができています。出された意見や話し合った内容等は職員が必ず立ち寄るキッチンに掲示し、運営に反映されるような仕組みづくりができています。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各職員の能力や実績に応じた賞与支給、希望を取り入れたゆとりのある勤務体制によって各職員がやりがいを感じつつ無理なく働くことの出来る就業環境が整っている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 各職員の希望に応じて、研修への参加や資格取得を推奨・援助している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 管理者の知人のケアマネージャーの勧めでショートステイや入所を希望する利用者もおられ、良好なネットワークづくりが出来ている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所を決める前に「おためし」でサービスを体験してもらったり、入所後も数日に一度帰宅して少しずつホームにも慣れてもらったりと、安心してホームでの生活ができるよう工夫をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 安心してサービスが受けられるよう十分な話し合いを重ね、信頼関係を築いたうえでサービスを開始できるよう心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 面談やアセスメントを重ね、利用者の現状における最適なサービスを受けられるよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「家族のような関係」であり続けることを目指し、対等かつ敬意を持って利用者に接するよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入所後も家族の協力が不可欠だということを理解していたき、協同してケアに取り組める関係が出来ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の友人知人が気軽にホームに訪ねてこられている。また、利用者が家族や友人に季節の便りや手紙を書く支援をしている。 (外部評価) 利用者が今までに培ってきた人間関係や社会、習慣等の関係を利用開始時に利用者や家族から聞いて把握し、事業所を利用していても関係の継続ができるよう支援している。家族の協力を得て、利用者が馴染みの場所に出かけられるよう支援している。押し花や手芸、マジックなど地域のボランティアの訪問があり、新たな馴染みの関係を築きながら楽しみにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの性格や利用者同士の相性などを把握し、職員が必要に応じてさりげなく利用者同士の間に入ることで孤立する利用者がいたり対立が起きたりしないよう、努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後も家族が訪れて近況を知らせてくださるなど、交流がある。その際、家族からの相談に助言することもある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の意思を表現するのが難しい利用者が多いため、一人ひとりとの普段の会話を大切にし、そこからそれぞれの希望や意思を汲み取り、それを実現できるケアプランを実施している。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いや要望を聞き把握するよう努めている。思いを伝えることが困難な利用者には、家族等から情報を得て利用者本位のサービスが提供できるよう検討している。新たに得られた情報は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族との面談、また以前利用していたサービス担当者、かかりつけの医療機関との連携により、把握できている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 各職員が家族のように共に生活する中で、利用者一人ひとりの心身や気持ちの変化を機敏に察知し、把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 本人の現状と希望を把握し、家族や関係者の意見を取り入れ、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにプランの見直しを行い現状で最適なケアが実施されるよう心がけている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族等の意向を反映して職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。現在は利用者毎の担当制を設けておらず、介護記録等を確認しながら職員間で話し合いモニタリングをしている。3か月に1回見直しを行い、現状に即した介護計画になっている。職員は看護経験豊富な管理者から指導を受け、医学的な視点や判断能力を養いながらケアを実践している。また、現在職員間で話し合い介護記録の様式の改善を行っている。</p>	今後もしっかりしやすい介護記録や介護計画の作成となるよう検討を継続させ、介護計画の内容を職員全員が理解して支援できることを期待したい。また、介護計画の内容に沿った介護記録を作成し、根拠あるモニタリングが行えるような取組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者それぞれに毎日の介護記録を作成し、小さな変化も見逃さないようにしている。また職員間での申し送りや意見交換にて現状を把握し、プランに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 家族が高齢で面会に来れない場合に本人を自宅まで連れて面会できるようなサービスを行ったり、動物好きな利用者のために職員が飼っている犬を連れてきてふれあってもらったりと、希望に応じた試みを行っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近所の方が手芸を教えに来てくださったり、中学生の職場体験を受け入れたり、地域の力を通じて利用者が楽しくいきいきと暮らせるよう支援している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人を長年担当しているかかりつけ医と連携し、安心して 医療を受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医を家族の協力を得て 受診することができる。家族が同行できない場合は職員が 同行して適切な医療を受けられるように支援している。ま た、協力医との連携が密に取れており、往診や緊急時にも 迅速に対応することができ、利用者が安心して生活が送れ るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調不良の場合にはまず看護資格をもった職員に報告・相 談し、適切な対応ができるよう全職員に徹底している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院側との情報の共有に努め、早期退院に尽力してもらえ るよう、信頼関係が出来ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族からの希望があれば、ホームでのターミナルケ アも受け入れており、利用者が望む形での終末期を迎えら れるよう、医療機関の協力も得て体制を整えている。職員 も理解・協力して支援している。	
			(外部評価) 事業所では看取り支援を経験している。利用開始時に事業 所としてできる内容を利用者や家族に説明し、意向を確認 している。利用者の状態に応じて、家族等と話し合いを重 ねながら適切な支援ができるよう努めている。ターミナル ケアは看護師資格を有する管理者が職員に詳細に指導を行 い、職員も状況に応じた具体的な対処や介護職としてでき る支援をしている。また、協力医と連携し、利用者や家族 を真心から支えるケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の講習会やホームでの定期的な訓練によって、緊急時に適切な対応が可能である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全職員が参加する年に2回の避難訓練で、対応力を身につけている。	
			(外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は防火管理会社の協力を得て専門的なアドバイスを受けている。非常緊急通報システムなどを定期的に点検している。代表者は防災士の資格を持っており、事業所には防災頭巾を備えるなど、自主的に安全に対する備えを行い、危機感を持って地域に発信できるように意識して取り組んでいる。地域に自主防災組織はないが、運営推進会議を利用して参加者と災害対策などの意見交換をしている。	事業所は河川や海に近いので、様々な災害を想定した訓練を行い、利用者が安全に避難できるよう取組みを望みたい。また、災害時の地域の協力者を増やし、一緒に継続した訓練が実施できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 家族のような馴染んだ関係の中にも、敬意を持った言葉をつかい、必要以上の干渉はしないなど、プライバシー尊重も心がけている。	
			(外部評価) 職員は何よりも利用者本人の気持ちを最優先に考えて支援している。利用開始時に利用者がどう呼ばれたいかを確認し、家族等に若い頃の呼び名を尋ねたり、話すことが困難な利用者にも本人が一番落ち着く名前と呼んであげたいと尊敬の念を持って接している。また職員は慣れからくる口調に気をつけ、声かけや接遇面にも注意しながら、気になることは職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は日常の何気ない会話から本人の意思を読み取れるよう心がけている。また自己表現が困難な方には職員が分かりやすい選択肢を示し答えやすい形にするなど、利用者の思いをくみ取り実現できる働きかけを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一日の大まかな流れはあるものの、それぞれの利用者が自分のペースで生活できるよう職員がそれぞれに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 服装や髪形は、本人や家族の希望通りにしてもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望を取り入れた献立作りから始まり、買い物や調理、片付けも出来る方には手伝っていただいている。時には外食したり、テイクアウトのハンバーガーを食べていただくなど、変化に富んだ食事を楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 家庭的な温かさや利用者の希望を取り入れて献立を立て、地域の商店から旬の食材や地域で取れた食材が届けられ、職員が利用者にごしらせや食事の準備などを手伝ってもらいながら料理をしている。食事には冷凍の食材は使用せず、衛生面を考え作り置きもしていない。職員は利用者と同じ食卓を囲み、同じ食事を食べている。毎月1日は赤飯を作り時期が分かる工夫をしたり、毎月行事食を利用者と一緒に料理したりしており、利用者の食事を楽しむ様子をアルバム「ぐれないレストランメニュー」にまとめている。外食も取り入れ、利用者の楽しみにつながる工夫をしている。また、利用者においしい食事が提供できるよう、入職後に調理師資格を取得した職員もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体格や持病に合わせ、バランスの取れた食事を提供している。お茶を飲みたがらない方には少量ずつこまめに摂取できるよう声掛けを工夫するなど水分補給にも気を配っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員も一緒に歯磨きをするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>それぞれの排泄パターンを把握し、さりげなく声を掛けたりトイレ誘導することで排泄の自立を目指している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、訴えや表情、様子を見て、さりげなく声かけをしてトイレ誘導を行っている。現在、オムツを使用している利用者はいない。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が1名いるが、現状を維持できるようにできる限りトイレでの自然な排泄ができるよう継続支援している。利用者の状態に応じて、パッドやリハビリパンツ等の用品を選択して使い分け、利用者本位のケアに努めている。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>十分な水分補給、根菜・豆類を多用した献立、また体操やホーム内を歩くなど軽い運動で便秘予防に心がけている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入浴時間は午後からと決まっているものの、利用者全員が楽しく気持ちよく入浴できている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ユニット毎にゆったりとした個別浴槽があり、週3回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて毎日入浴することができるほか、夜間20時まで入浴ができるよう支援している。1階には車いすの利用者にも座ったまま安楽に入浴なみの温熱効果が得られる福祉用具を設置し、利用者の状態に合わせて使用している。入浴が苦手な利用者には、無理強いせず声かけや部屋の温度などの環境を工夫しながら、気持ち良い入浴ができるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>室内の明るさや就寝時の服装は本人の好みに合わせ、使い慣れた寝具を使ってもらい安心して眠ってもらっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員は処方箋の注意書きをよく読み、熟知している。薬の種類や量の処方に変化があれば各職員に文書を掲示し、注意を促すようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホームでカラオケを楽しんでもらったり、趣味の手芸や読書に興じる方もいる。ビールを飲む習慣のある方には家族や主治医の判断も仰ぎホームでも飲めるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩や買い物、スーパーのフードコートでおやつを楽しむなど、日常的に外出する機会を持っている。家族と定期的に外食の機会を持つ利用者もおられる。	
			(外部評価) 日頃から利用者の希望に沿って散歩や買い物に出かけており、気分転換や地域住民との交流を楽しむことができている。地域住民の好意で、畑で野菜の収穫を体験できるよう支援している。季節に応じて、花見等に外出が楽しめるよう支援しており、利用者の生き生きとした生活につながっている。また、家族の協力を得て外出をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理は本人や家族と相談し、本人の状態に合わせた対応をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望に沿えるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 室内の明るさ、温度、テレビの音量などは職員が常に気を配り適切な状態に保たれている。ホームの様々な場所に季節の花や小物を飾り、家庭的でぬくもりのある心地良い空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 開設10年を迎えたが、事業所内は非常に清潔で丁寧に管理されている。特に外部からの感染等に配慮し、利用者に気持ち良く生活してもらえるよう、1日3回清掃を行い清潔が保たれている。共用空間は目が行き届きやすく開放的で広々とした造りで、窓からは四季折々の美しい石鎚山脈などを眺めることができる。広い畳スペースや廊下には利用者家族から譲られた昔懐かしいミシンや家具などが置かれ、ゆっくりとした時間の流れを感じることができる。置かれている一つ一つのものに思いや温かみを感じられ、利用者の立場を考えた空間づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間では、椅子の他ソファや畳の間もあり、利用者が気の向いた場所で過ごせるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家具や身の回り品は使い慣れたものを持ってきてもらい、使いやすい配置にしている。テレビ鑑賞が好きな方はテレビを持ち込み、自室でも楽しめるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられており、利用者の思い入れのあるものや使い慣れたものを持ち込めるよう声かけをしている。家族に協力してもらい、衣替えや季節の飾りをするなど、利用者に合わせて空間づくりをしている。利用者の希望により畳を敷いている部屋もあり、夕食後には利用者同士が畳の居室に集まり、近所の仲間としての交流もしている。利用者の習慣に合わせた暮らしを実現してもらうことが、居心地の良い生活につながっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレや手洗い場を分かりやすく表示したり、夜間の転倒予防のためセンサー式の足元灯を設置したり、安全に配慮し自立に向けた環境づくりに努めている。</p>	